

平成30年度指定管理者モニタリング評価表

施設名	羽咋市立図書館		
指定管理者	(有)プロジェクトドゥ		
住所	羽咋市中央町フ162	選定方法	公募
指定期間	平成29年 4月 1日 ~ 平成34年 3月31日(5年間)		
指定管理料	23,252千円 (平成30年度現計予算額)		
評価担当課	生涯学習課		
年度重点目標	生涯学習の拠点として、資料・情報の充実を図り、住民に親しまれる施設とするとともに、市内の学校図書室や生涯学習施設、福祉施設、ボランティアグループと連携し地域の実情に即した運営に努め、住民の学習活動を支援するための機能の充実を図る。		

評価項目	評価する内容の詳細	評価		確認方法	備考
		中間	年間		
1 職員配置などの実施体制	仕様書・事業計画書どおりの人員配置がなされているか。	A		書類	社員3人(うち司書2人) パート4人
	事業計画書に則した職員研修が実施されているか。	A		聞取り	定期的に研修を実施及び受講 児童サービス、レファレンス研修など
	指定管理業務の全部、又は主たる業務を再委託していないか。(届出済みの業務委託部分は除く)	A		聞取り	再委託無し
2 施設、設備及び備品の維持管理の状況	仕様書等に基づき適正に維持管理業務が実施されているか。	A		書類	仕様書等確認
	整理整頓・清掃がなされており、植栽等についても美観を損なっていないか。	A		現地	現地確認
	法定保守点検について、点検内容、時期等が法令基準に基づき実施されているか。	A		書類	保守点検報告書等で確認(コスモアイル羽咋管理に準ずる)
	保守点検において、異常が認められていた場合、また、修繕が必要な箇所が見つかった場合、適切な処置が実施されたか。	A		聞取り	報告書を受付、随時修繕を実施(コスモアイル羽咋管理に準ずる)
	備品等に過不足がなく、適正に管理されているか。	A		書類	台帳確認(図書についてはパソコンで管理)
3 サービス向上への取組状況(アンケート調査による意見及び対応は項目9に)	ホームページなどで積極的に情報提供が行われているか。	A		聞取り	随時更新を実施 ホームページ確認
	特定の利用者を優遇したり、法令に基づく手続を経ることなく、利用を制限している事例はないか。	A		聞取り	事例なし
	利用者に対して満足度について調査(アンケート・意見箱の設置等)を行ったか。	A		書類	アンケート確認
	苦情・トラブルに対し、適切・迅速に対応しているか。	A		聞取り	主だった苦情なし アンケートの意見に対応
4 防犯・防災対策の取組状況	緊急時の連絡体制は整っているか。避難訓練等は実施されているか。	A		書類	訓練 年2回実施(5月、10月)
	リスクに応じた保険等に加入しているか。	A		聞取り	保険に加入

評価項目	評価する内容の詳細	評価		確認方法	備考	
		中間	年間			
5	個人情報保護の措置状況	個人情報は適正に管理されているか	A		聞取り	利用者カードなど1年保存終了後シュレッダーで廃棄
6	経理の執行管理状況	団体のその他の事業との区分を明確にし、適正に経理処理が実施されているか。	A		聞取り	実施されている
		収支計画書と大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因は何か。	A		書類	計画書どおり実施
		定められた料金を適正に收受しているか。	-	-	-	
7	施設利用状況	前年同期と比較し、利用者数・施設稼働率等に著しい差異がないか。ある場合は、その原因は何か。	A		書類	【別紙】施設の利用者数及び収入額について確認
8	市への報告体制の確保	月例報告・実績報告・その他必要な報告が適切に提出されているか。	A		書類	報告書は提出されている
9	アンケート調査意見及び対応	<p>・図書館利用者アンケート調査での職員の対応については、「良い」51%、「まあまあ良い」31%、「普通」15%、「あまり良くない」3%であった。主な意見では、「新しい本・CD・DVDを増やしてほしい」が多数あり、図書購入予算内で新刊等の補充を行った。またCDやDVDはネット等を活用し安価なものを購入し補充に努めた。</p> <p>・子供の企画だけでなく、高齢者にも身近な図書館の工夫をしてほしいとアンケートがあり、大人向け（高齢者含む）の「切り絵」工作教室を本年度4回実施します。展示に関しても高齢者向けコーナーや大活字体コーナーも設置し、図書館の利用度を向上させる。</p>				
10	今後、検討・調整が必要な事項	<p>・図書館は、誰もが読みたい本を自由に選び、読書の楽しさを知り、本を通して知識を得ることができる場所であり、本や情報などが容易に入手できるように、予算の範囲内で蔵書や資料の充実を努める。</p> <p>・テレビ、ビデオ、インターネット等の様々な情報メディアの発達・普及や子供の生活環境の変化、さらには、幼児期からの読書週間の未形成などにより、子どもたちの「読書離れ、活字離れ」が指摘されている。また、リタイアされた方や高齢者には「生き甲斐の場」「学習の場」を提供するためにも、少子高齢化時代に合わせた資料や情報の収集、企画など様々なことに取り組み、広報活動等で周知し、市民に根付く取り組みを行う。</p> <p>・スマートフォンやタブレットの普及により、電子書籍の利用者などが増え、図書館の利用減少に繋がっている。今後利用者の増加に繋がる方策を検討する。</p> <p>・生涯学習の拠点として、資料・情報の充実を図り、市民に親しまれるよう工夫する。</p> <p>・図書館システムがH23.9月に導入され7年目に入り、システムの更新について検討が必要である。</p>				
11	今後の管理方針	<p>・「読書離れ、活字離れ」を抑制するために、子どもたちが積極的に図書館を利用するように、学校機関やボランティア団体と連携・協力し、読み聞かせやおはなし会の開催、図書の展示やイベント等を行い、子どもたちの読書推進に努める。</p> <p>・学校図書館司書や読書活動に関わるボランティア養成のための研修や、資料・情報の提供、講座や講演会などの充実を図る。</p> <p>・市内の各小中学校図書館司書と学習会(毎月)を開催し、図書利用指導・相互研修、情報収集に努める。</p> <p>・昨年度から図書館の開館時間を午前9時30分から午後6時00分とした。</p> <p>・今年度から行った「切り絵教室」などの高齢者対象の事業を充実させ、図書館利用者の増加を図る。</p>				
総合評価	中間評価		年間評価		平成29年度	平成28年度
	A				A	A